

栃木県立文書館 令和7(2025)年度 常設展の御案内

2025.6 ～ 2026.6

文書館常設展では3つのコーナーを設け、それぞれのテーマに関する史料を紹介しております。

限られた点数ではありますが、多様な史料の語りかける世界をどうぞお楽しみください。

○ もんじょ君



テーマ1 文書でみる栃木の疎開

主な展示史料	令和7(2025)年は戦後80年という節目の年です。
都市疎開ニ伴フ地方転出証明書	先の戦争では、国策として疎開が実施され、本県にも都市部から多くの人々が疎開してきました。疎開先の一つであった那須烏山市の安楽寺から寄贈された史料を中心に、本県における疎開がどのようなものだったのか、その一例を紹介します。
組立式疎開籠(写真)	
疎開先での児童の様子(写真)	
保護者から安楽寺住職への礼状	
児童からの手紙	ほか

テーマ2 小宅雄次郎家文書 ―描かれた幕末期の日本―

主な展示史料	小宅家は、近世に真岡荒町(現真岡市)で木綿問屋を営みました。史料群の大半は、幕末の文人として著名な小宅文藻に関わるもので、花鳥画や人物画、ペリー来航を詳細に描いた彩色画など、当時の世相や文化を雄弁に物語るものです。本コーナーでは、主に幕末期の日本の様子がわかる史料を中心に紹介します。
七福神図	
芳賀高名画像	
坂下ノ勇士七人	
ペリー上陸の絵	

テーマ3 江戸時代 ―文書の時代へ―

主な展示史料	江戸時代には、さまざまな記録を残す必要があったため、文書作成量が飛躍的に増加しました。現在、古文書として私たちが多くの文書を目にすることができなのは、これらが大切に保管されてきたからです。本コーナーでは、武士・町人・百姓がそれぞれ作成した文書を紹介します。
油屋仲間永株御証文	
御社参御役人馬小前触当帳	
日光山御参詣御泊城御用掛控帳 (期間限定展示)	
徳川家綱朱印状	ほか

- 展示期間 令和7(2025)年6月16日(月曜日)から約1年間
※土、日、祝日、年末年始休館日を除く
※ただし、令和7(2025)年6月29日、7月27日、8月31日、9月28日、10月26日、11月30日、12月21日
令和8(2026)年1月25日、2月22日、3月29日は午前10時から午後5時まで開館します。
- 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 会場 県庁南館2階 栃木県立文書館展示室(宇都宮市塙田1-1-20)
- その他 入館料無料

各テーマの代表的な展示史料

常設展示のテーマごとに、代表的な展示史料を紹介します。

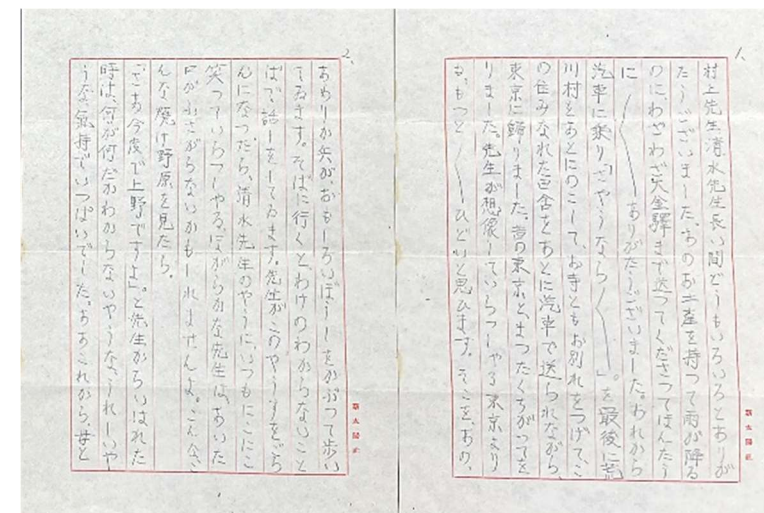
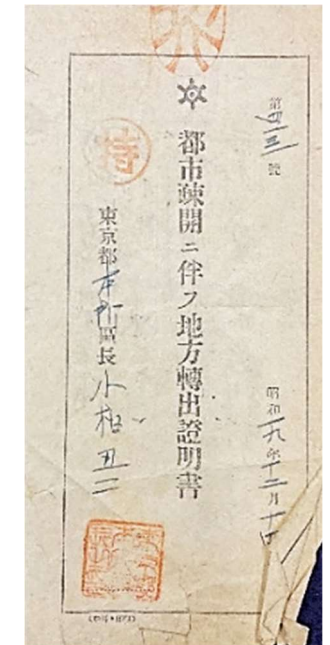
1 文書でみる栃木の疎開

都市疎開ニ伴フ地方転出証明書

昭和19年(1944)12月14日

当館寄託 竹澤渉氏収集文書 No.11213

栃木県下都賀郡野木町への転出を証明したものです。妻と子ども2人の転出で、夫の実家への縁故疎開と推測されます。当時、鉄道への乗車には制限がかかっていましたが、この証明書があれば、指定された鉄道に優先的に乗ることができました。



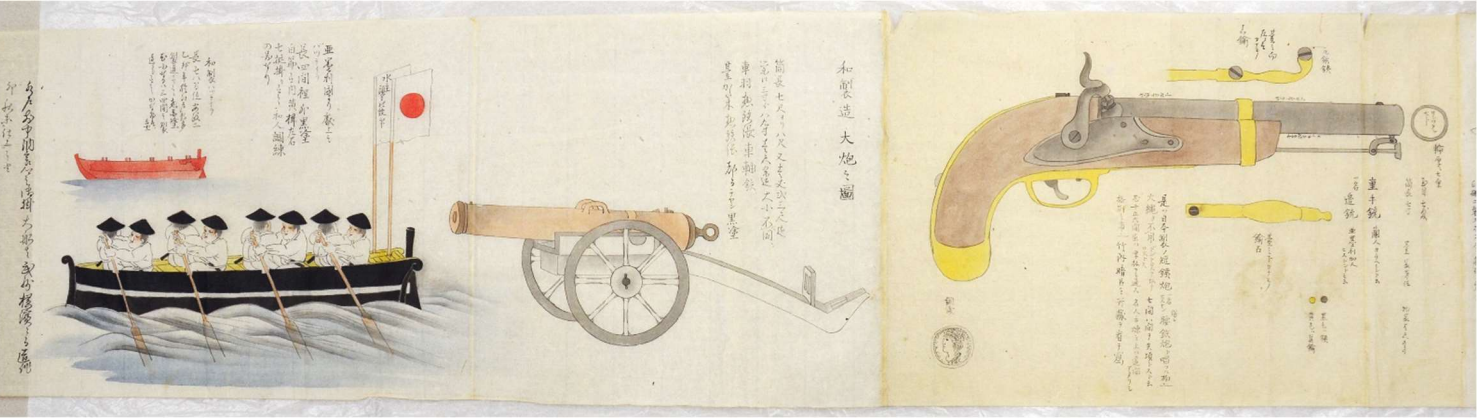
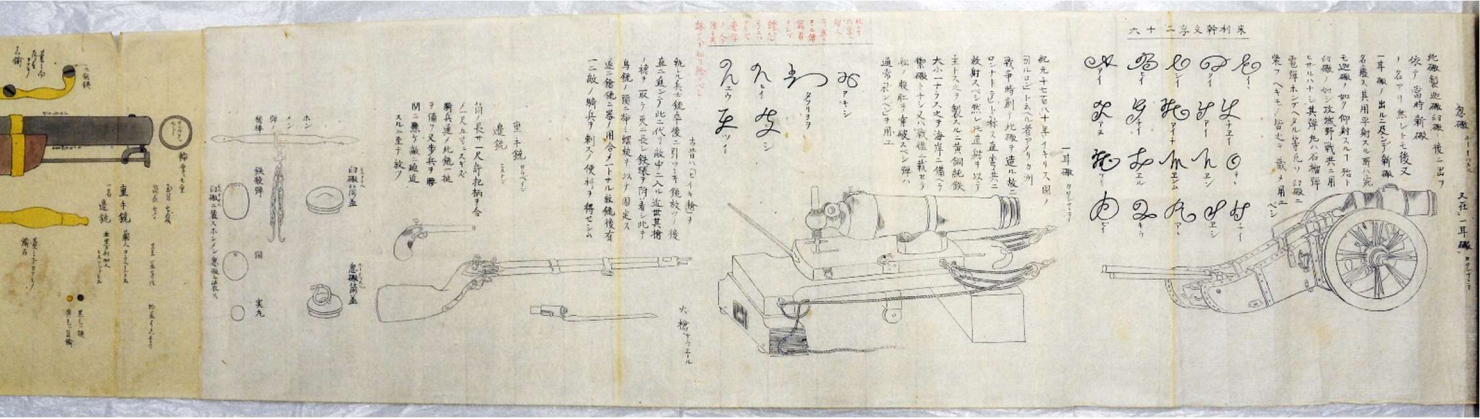
児童からの手紙

昭和20年(1945)10月25日

当館寄贈 誠之国民学校疎開関連文書 No.58

この手紙は、終戦後児童によって書かれたものです。「あめりか兵」の服装と言葉についての記述があり、児童から見たGHQ統治下の東京の様子をうかがい知ることができます。

2 小宅雄次郎家文書 ―描かれた幕末期の日本―



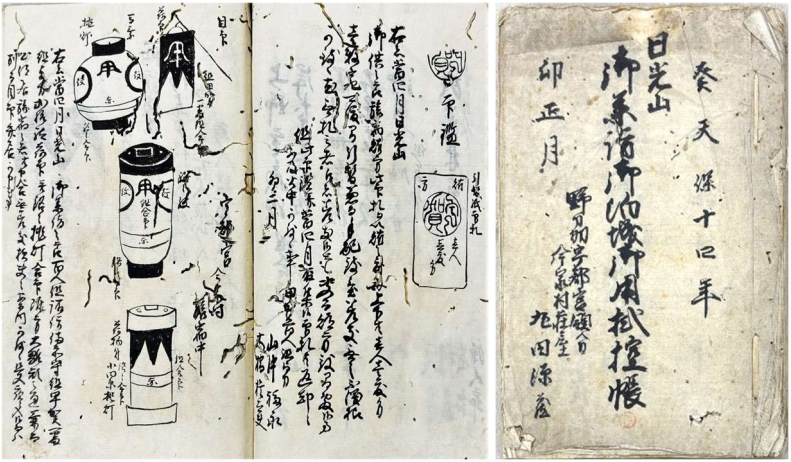
ペリー上陸の絵

(嘉永6年(1853)以降)
当館寄託 小宅雄次郎家文書No.11

嘉永6年にペリーが浦賀(神奈川県横須賀市)に来航し、岬を隔てた久里浜に上陸した時の様子を主に示しています。展示部分には、蒸気船、アメリカ兵が持ち込んだ兵器類やペリーの画像等が詳細に描かれています。

※「ペリー上陸の絵」は、2月下旬から別の場面を展示する予定です。

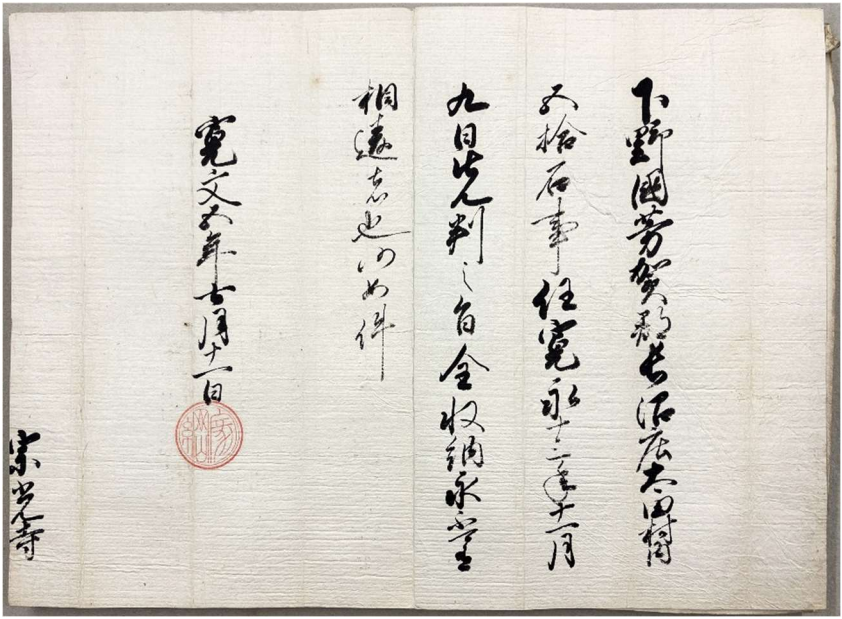
3 江戸時代 ―文書の時代へ―



日光山御参詣御泊城御用掛控帳

天保14年(1843)正月
当館寄贈 辰巳四郎家文書No.1

12代将軍徳川家慶の日光社参一行の宇都宮宿泊にともない、将軍の護衛をする百人組(鉄砲百人組)の宿泊が割り当てられた、今泉村(現宇都宮市)が残した記録です。史料の左側には宿の目印となる挑灯(提灯)の雛形図が描かれています。



徳川家綱朱印状

寛文5年(1665)7月11日
当館所蔵 徳川将軍家朱印状No.607

4代将軍徳川家綱が、宗光寺(現真岡市)に対して、長沼庄太田村(現真岡市)の50石を領地として認めたものです。宗光寺は、円仁により嘉祥元年(848)に創建されたと伝わっています。天正19年(1591)には多賀谷氏により破却されましたが、慶長8年(1603)から天海により再興が図られ、「関東十談林」の一つに列せられました。